

第51回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2018.11.13

『トラディアンス配合錠AP/BP』

日本イーライリリー・日本ベーリンガーインゲルハイム

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：沢先生、内科職員さん、熊山ともみ、空田さやか、薦田麻理子、波間薫、木村亜希子

カナリア、スージャヌに続く選択的SGLT2阻害剤/選択的DPP-4阻害薬配合剤である「トラディアンス配合錠AP/BP」が発売されることになる。患者さんのQOL向上の手助けができるよう、新たな合剤の特徴を学んだ。

【効能・効果】

- ・ 2型糖尿病

(本剤を2型糖尿病の第一選択薬として用いないこと)

【用法・用量】

通常成人には1日1回1錠を朝食前または朝食後に経口投与する。

【禁忌】

- ・ 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者。
- ・ 重症ケトosis、糖尿病性昏睡または前昏睡、1型糖尿病の患者。
- ・ 重症感染症、手術直後、重篤な外傷のある患者。

【副作用】

主な副作用として、血中ケトン対増加、無症候性細菌尿、膀胱炎。

【特徴】

- ・ 合剤で唯一、APとBPの2規格が存在する。
- ・ 日米欧の三極で承認されているという後ろ盾がある。(他は国内のみ)
- ・ 2種の合剤ではあるが、2規格ともトラゼンタ単独と同じくらいのサイズ。(ジャディアンスより小さい)
- ・ 1日1回の服用で安定した効果を示す。
- ・ 適応症とは別の観点ではあるが、合剤中の成分であるジャディアンスでは腎アウ

トカムのリスク軽減に、トラゼンタでも心血管アウトカムのリスク軽減の観点から、長期的な安全性を達成し糖尿の治療以外の点においても評価は高い。

【考察】

糖尿病は周辺症状も多く、糖尿病患者の約9割は2剤以上の薬剤を服用しているという状況において、薬剤服用による負担を軽減することが、治療意欲の向上につながり、目標達成に近づけると考えられる。

本剤は2型糖尿病の第一選択薬としては用いられないことから、過去の服用歴が重要であり、適切な使用において投薬時の聞きこみが重要であると考えられる。

寒くなってくると水分の摂取も減少し、尿量が減少すると、SGLT2の効果の影響や、SE発現が増加すると考えられるので、服用開始で治療につまづかない様に心がけたい。